

京極読書新聞 <第105号>

発行日 令和2年2月7日(金)
京極町生涯学習センター湧学館



京中生にインタビュー



平成30年度第29回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしました。今の中学生はどんな本を読んでいるのでしょうか？

山岡 夢乃さん
中川 和香さん

中学2年「西の魔女が死んだ」
中学2年「グッドジョブガールズ」



「西の魔女が死んだ」 梨木香歩／著（小学館，1996）
「グッドジョブガールズ」 草野たき／著（ポプラ社，2015）

—— 山岡さんはどうしてこの「西の魔女が死んだ」を選んだのですか。

山岡 題名がとても印象に残ったので選びました。

—— 中学生のまいが田舎の祖母のもとで一カ月程過ごす話ですが、山岡さんの好きな登場人物は誰ですか。またどういうところが好きですか。

山岡 まいのおばあちゃんです。包容力のある人に憧れます。

—— まいと祖母とのやりとりで好きなところがあるそうですが。

山岡 特に限定するわけではないのですが、まいの素朴な質問に、真面目に答えるおばあちゃんがいいと思いました。

—— この本を読んで心に残ったことは何ですか。

山岡 まいのおばあちゃんに対する思い入れが、とても深かったんだなと思いました。

—— この本をどんな人たちに読んでほしいと思いますか。

山岡 読み終わったあとすごく気分が落ち着いたので、少し疲れたなと思う人に読んでもらいたいです。

—— 今までの中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

山岡 何かの行事ということじゃないのですが、普通に毎日学校へ来て過ごすことが楽しいです。

—— 中川さんが読んだ「グッドジョブガールズ」はどんなお話ですか。

中川 主人公のあかりには仲良しとは言えない悪友がいるんですが、その悪友との関係を、小学校生活最後の思い出づくりで始めたチアダンスで、少しずつ変えていく話です。

—— この本で心に残った場面が二つあるそうですが。

中川 一つ目は、あかりが桃子に「悪友なんてやめよう」と勇気をだして言った場面です。二つ目は、あかりと桃子と由香の三人が、しっかりと自分の気持ちを伝えあった場面です。

—— この本を読んでどんなことを思いましたか。

中川 私は自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを、あらためて知りました。

—— 最近読んだ本や、見たドラマや映画のなかで、面白かったのは何ですか。

中川 10月頃に見た「凧のお暇」というテレビドラマです。

—— 今までの中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

中川 2年の球技大会のハンドボール投げで1位をとったことが思い出です。



半田 若葉さん 中学2年 「君の臍臓をたべたい」
米山 侑那さん 中学2年 「世界から猫が消えたなら」



—— 半田さんはどうしてこの本を選んだのですか。

半田 「君の臍臓をたべたい」の映画を見て、読んでみようと思いました。

—— どんな内容ですか。

半田 臍臓の病気にかかった桜良とクラスメートの僕が会って、内気だった僕が人と上手に関係を築けるようになっていく話です。

—— 半田さんは主人公の「僕」と似ているところと、似ていないところがあると思ったそうですが、どういうところが似ていると思いましたか。

半田 読書が好きなのと、人と話すのが苦手なところ です。

—— それでは似てないと思うところはどこですか。

半田 クラスメイトが病気になっても普通にいられることが、私にはできません。

—— この本を読んでどういうことを思いましたか。

半田 病気のことや生きること、死ぬことについてあらためて考えさせられました。また、人はいつ死ぬか分からないので、だからこそ今を大事に生きていきたいと思いました。

「君の臍臓を食べたい」住野よる／著（双葉社，2015）
「世界から猫が消えたなら」川村元気／著（マガジンハウス，2012）

—— 米山さんにお聞きしますが、この「世界から猫が消えたなら」はどんな内容なのですか。

米山 脳腫瘍で余命わずかだと言われた主人公の前に、「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは一日だけ命を得る」と言ってくる悪魔が現れます。主人公は生きるためにモノを消していく七日間の物語です。

—— 米山さんなら何を消しますか。

米山 海洋プラスチックのゴミです。

—— 主人公が何を消したのが特に印象に残りましたか。

米山 映画です。主人公には彼女がいて、出会いが映画だったんですが、その映画を消したので彼女と赤の他人になったところです。

—— この本で心に響いた言葉があるそうですが。

米山 「この世界にはたくさんの残酷なことがある。でもそれと同じくらい美しいものがある」という言葉です。

—— この本を読んでどういうことを考えましたか。

米山 私も半田さんと同じく、いつ死ぬかわからないからこそ、一日一日を大切に生きることが大事だと思いました。



老田 圭吾さん 四宮 琉晟さん

中学2年「罪と罰」 中学3年「ツナグ」

—— 老田さんどうしてこの「罪と罰」を選んだのですか。

老田 タイトルが気になって選びました。

—— 主人公ラスコーリニコフの考え方に疑問を持ったそうですが、どんな考え方なんですか。

老田 一つの罪悪は百の善行によって償われるという考え方と、選ばれた非凡人は凡人の法律や道徳を踏み外す権利があるという考え方です。

—— これについて老田さんはどう思いましたか。

老田 罪悪は償われるというよりも、そもそも罪を犯さないほうがいいと思うし、善行に百というのは関係ないと思います。

—— この本を読み終わってどういうことを感じましたか。

老田 そういう考え方をするラスコーリニコフを見ると悲しくなりました。

—— 最近読んだ本で面白かったのは何ですか。

老田「どんどん橋、落ちた」という綾辻行人の書いたミステリーが面白かったです。

—— 今までの中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

老田 一年生のときの文化祭で見た「有志」が一体感があって、とても良かったです。

—— 四宮さんどうしてこの「ツナグ」を選んだのですか。

四宮 本屋さんに行ったときに、この本がぱっと目につきました。

—— どんなお話なんですか。

四宮 使者（ツナグ）が、一生に一度一晩だけ、一番会いたい人に会わせてくれるというフィクションです。

—— 四宮さんはおじいさまと会ってみたいそうですが。

四宮 私が生まれる4カ月前に亡くなったので、祖父に会ってみたいです。

—— もし会えたらどんな話をしたいと思いますか。

四宮 自分の母親の、子どものときのことを聞きたいです。

—— この本を読んでどういうことを感じましたか。

四宮 読んでいくうちに、祖父のことが頭に浮かんできて、だんだん悲しい気分になりました。

—— 最近読んだ本で面白かったのは何ですか。

四宮 今、朝読で読んでいる「星の王子さま」です。

—— 今までの中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

四宮 一年生のときの球技大会のバスケットボールで、上級生のチームに勝ったことです。



「罪と罰」

ドストエフスキー、汐見朝子／著
(世界文化社, 1996)

「ツナグ」辻村深月／著
(新潮社, 2010)

建礼門院右京大夫が見た平家の人々

——素顔の貴公子たち——(その4)

<『平家物語』を読む会> 村山 功一

素顔の貴公子たち (5) 時忠・忠度・知盛 (ときただ・ただのり・とももり)

清盛の妻時子の弟(一説には兄とも)として権勢を振るった平大納言時忠は、武将ではありません。時忠の家系は堂上(とうじょう)平家と言われる貴族の家柄です。一方清盛の系統は地下(ぢげ)平家と呼ばれています。それはともかく、義弟として清盛をよく支え、清盛もまた最も頼りにした人物とされています。貴族には珍しく気性の烈しい人だったようで“荒公卿(あらくぎょう)”と呼ばれていたといひます。「平家にあらずんば人にあらず」と公言した人物として、古来有名です。様々の面でなかなか魅力的な人物なのですが、本題から外れるのでここでは触れません。

『右京大夫』に時忠が登場するのは一回だけです。

五月五日(菖蒲の日・五節句の一つ)、時忠は中宮徳子の長寿を願って普通のものよりずっと長い菖蒲の根に歌を添えて献上しました。それは中宮権大夫(「中宮職」の次官)としての公的儀礼ではありますが、姪である中宮の長寿を願う叔(伯)父としての優しい心遣いが込められているように感じられます。“平閔白”と畏敬され“悪別当”と恐れられた時忠の一面が見られます。この時《右京大夫》は中宮に代わって返歌を詠んでいます。公的な贈歌に対する返歌ですから当然中宮としての公的返歌です。その代詠を命じられたことは《右京大夫》にとってこの上ない名誉であると同時に、彼女の非凡な歌才を物語っています。中宮もまた彼女の才能を高く評価し、また深く信頼していた様子が読み取れます。



▲ 平時忠

壇の浦後捕虜として都へ戻った時忠は文官であったため処刑されず、能登国に配流となりました。『平家』には配所へ出発する文治元(1185)年九月二十三日、まだ吉田にあった建礼門院(中宮徳子*)を訪ね別れの挨拶をする場面が描かれています。これについて角田文衛氏は、二人の間に交わされた言葉はともかく、この訪問は「事実とみてよからう」と述べています。この直後建礼門院は大原寂光院に入られ、時忠は再び都に戻ることなく文治五年、能登国の配所で没しました。

*中宮徳子は養和元(1181)年院号宣下。以降、建礼門院を称す。

【『平家』の関連章段】

時忠…巻十「請文」、巻十一「文之沙汰」、巻十二「平大納言被流」

忠度…巻七「忠度都落」、巻九「忠度最期」

知盛…巻八「水島合戦」「室山」、巻十二「内侍所都入」、その他多数

画像出典 「ビジュアル源平1000人」 (世界文化社, 2011)

P23…忠度、P31…知盛、P157…時忠



▲ 平忠度

忠度は一門随一の歌人であると同時に、有力な武将でもあります。忠度に関する最も有名なエピソードは、一門都落ちに際して歌の師である藤原俊成邸を訪れ、これまでに書き溜めていた歌を「いつの日にかしかるべき歌集に入れてほしい」と頼みます。これを受け取った俊成の「決してなおざりにはいたしません」という言葉に、今は思い残すことなしと馬上の人となった忠度は「前途程遠し、思いを雁山の夕べの雲に馳す」という漢詩を朗々と吟じつつ去っていく姿を、『平家』は印象深く描いています。そしてこの時の忠度の歌の一首は、俊成の手によって『千載集』に入れられます。ただし、“朝敵”とされた薩摩守平忠度の名を載せることを憚り“読み人知らず”としています。

『右京大夫集』での忠度については「忠度の朝臣（あそん）の「西山の紅葉みたる」とてなべてならぬ枝おこせて結びつけたる」という短い詞書と、一首の歌を掲げているだけです。しかしそこには有名な西山の紅葉の一枝に歌を添えて、姪である中宮に献上した歌人忠度の風雅な姿があります。

知盛は清盛亡き後、一門の総帥となった宗盛の弟、中宮の兄にあたります。『平家』における知盛は、一門の軍事上の総司令官的立場で総帥宗盛を支える“智将”として描かれています。数々の合戦では常に大手（正面）の大將軍として冷静・沈着な指揮を執り「墨俣（すのまた）川の合戦」「水島合戦」「室山合戦」では、源氏軍を撃破する活躍をみせています。壇の浦の合戦の終盤勝敗の行方を見定めた知盛は、なおも暴れ回る従兄弟の能登守教経を「これ以上無駄な殺傷をして、罪作りをなさるな」とたしなめ、御座船（安徳帝座乗）に乗り移り戦況を報告するとともに、敵に見苦しい所を見せてはならないと、自ら箒（ほうき）を手に船内の隅々まで掃き清めたと語られています。



▲ 平知盛

一門の中樞として重要な知盛ですが『右京大夫集』ではたった一度名前が出てくるだけです。徳子の叔母にあたる建春門院（後白河院后・高倉天皇母后）が内裏に來られてしばらく中宮と同じ御所で過ごしておられたが、明日ご自分の御所にお帰りになるという日に、建春門院の女房から歌が届きます。返歌を詠んだ《右京大夫》でしたが、歌の送り主が分からず困っていました。ちょうどその時、中宮の御所に参上した知盛に「建春門院方の女房にこの歌を届けてください」と頼んだと書いています。これだけなので知盛の素顔ははっきりしませんが、《右京大夫》の依頼を快く承諾した様子からおおらかで実直な人柄が想像されます。一方、当時すでに左近衛中将という高位にあった知盛に、ちゃっかりと「ことづけ」を頼んでいる作者《右京大夫》のちょっと“おちゃめ”な姿がほほえましく感じられます。同じ頃、中納言（承安四年頃）という高い地位にあった宗盛に「櫛をください」とねだったり（前述「宗盛」の項）している彼女ですが、そこにあつかましさをやすすうしさといった不快さはなく、むしろ平家の貴公子たちとの交流を心から楽しんでいる明るさを感じます。（次号完結）

令和元年度 『読書活動展示会』 開催しています

毎年開催している読書感想文コンクールですが、今年度から小学生の部は感想文ではなく、感想画や本の紹介ポスターの形で読んだ本を表現してもらうことになりました。



1年生



4年生

小学1～2年生…感想画
小学3～4年生…紹介ポスター
小学5～6年生…ポップづくり

2/29(土)まで全作品を湧学館に展示
していますので、どうぞご覧ください。



6年生

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>

